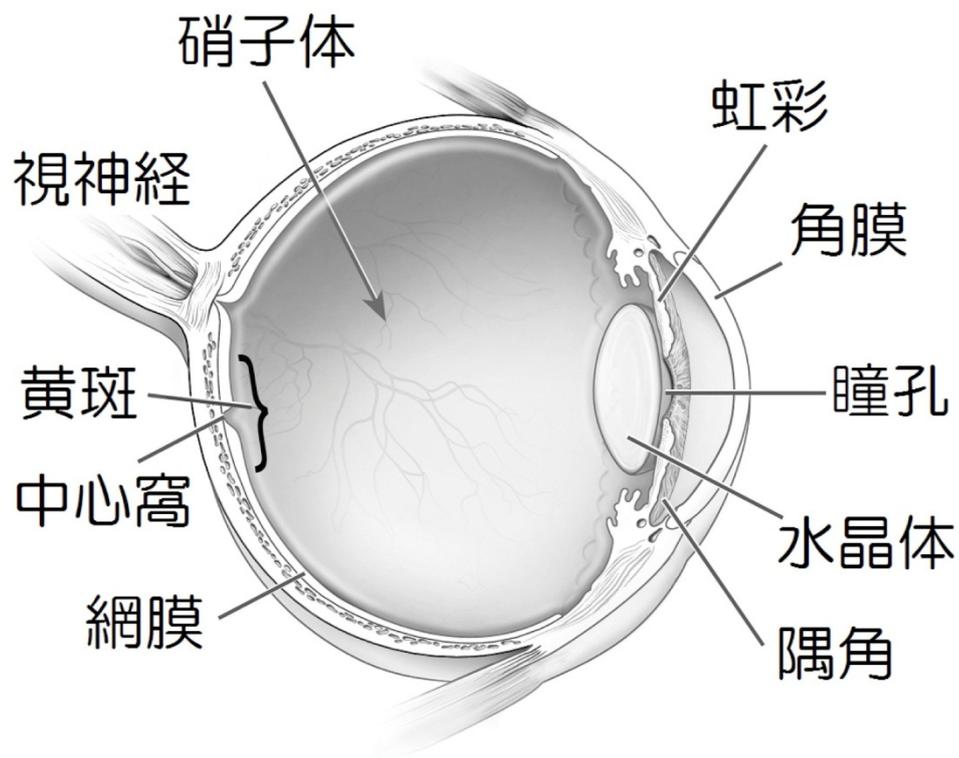


水晶体再建術（白内障手術）説明

虎の門病院 眼科

2020.6 改訂



【白内障について】

水晶体が濁った状態を白内障と言います。多くは老化が原因ですが、炎症や糖尿病などに伴うもの、打撲や外傷によるもの、先天性のものもあります。

【手術適応】

白内障を薬で治すことはできません。不自由を感じる場合は手術を行います。白内障は徐々に進行して視力が低下しますが、手遅れになることは通常ありません。水晶体が膨張する場合は急性緑内障発作を起こしやすいので視力が良くても手術が必要です。

【手術方法】

角膜（黒目）と強膜（白目）の境目の部分を小さく切開し、水晶体の中身を超音波で砕きながら吸引します。外側の袋（嚢）は残し、中に眼内レンズを挿入します。

【全身状態について】

術前に全身状態を調べます。問題がある場合は状態を改善してから手術を行います。

【手術の効果】

殆どの例で良好な結果を得ることができます。白内障以外の原因で低下した視力は改善しません。

【術後の注意点】

* 1 週間は感染予防のため顔を濡らすことができません。拭くだけにしてください。洗髪は仰向け（美容院）なら可能です。

* お酒は最低 3 日間控えて下さい。

* ジョギング、テニス、ゴルフ、ジムなどの軽い運動は 1 週間後から可能です。

* 創口がしっかり閉じるには約 1 ヶ月かかります。その間は眼球に力が加わることや水に潜ることを避けて下さい。また 5 日以上の旅も控えて下さい。

【合併症】

白内障手術は安全な手術ですが、合併症のため術前より見え方が悪くなることがあります。以下に主な合併症を説明します。なお、起きうる合併症をすべて列挙することはできません。また手術には予想外の問題が生じる可能性があります。

<軽度のもの>

* 白目に出血することがあります。数日で吸収します。

- * 異物感が生じることがあります。数日で軽減します。
- * 眼圧（目の圧力）が上昇することがあります。必要に応じて点眼薬や内服薬を使用します。多くの場合、数日で正常化します。
- * 角膜にむくみが生じて視力が出づらいことがあります。多くの場合、1週間程度で改善します。
- * 飛蚊症（黒い物が見える現象）が生じる、または強くなることがあります。多くの場合、徐々に軽快しますが変わらないこともあります。
- * 数日～数年後に眼内レンズを入れた嚢が濁る（後発白内障）ことがあります（数%）。視力が低下する場合はレーザーで治療します。

<中等度のもの>

- * 創口の閉鎖が不十分になることがあります。必要に応じて縫合します（再手術）。
- * 眼内レンズがずれることがあります。必要に応じて整復します（再手術）。
- * 黄斑（網膜の中心部）にむくみが生じて視力が十分に出ないことがあります。必要に応じて薬で治療します。多くの場合、数週間で改善します。

*術中は器具でまぶたを開きます。その影響で上まぶたが下がり気味になり、形成外科で手術治療を要することがあります。

*ドライアイの症状（乾く、染みる、開けているのが辛い等）が強くなる場合があります。多くの場合、2、3ヵ月で軽減しますが、長期に続くことがあります。

*角膜の細胞が減って角膜が濁り、角膜移植が必要になる事があります。外傷や角膜の病気などで術前から細胞が少ない方はその可能性が高くなります。

*水晶体嚢（袋）は非常に弱いので、術中に破れることがあります（約1%）。その場合は必要な処置を行い、眼内レンズを特殊な方法で固定します。手術を2回に分けて行うこともあります。

<重度のもの>

以下の合併症は極めてまれ（数千件に1件）ですが、結果として視力を失う可能性があります。現在の医学ではこれらを完全に防ぐことはできません。万一生じた場合は再手術によって治療します。

*感染：目は消毒しても無菌にはならないので、創口から微量の細菌が入ります。それが目の中で増えてしまうことがあります（殆どは術後1週間以内）。

*大出血：脈絡膜（網膜の外側の組織）の脆い血管が手術中の圧力変動によって破裂し、目の中に血腫を生じることがあります（術中または術直後）。

【その他の留意事項】

*目の消毒にはヨード系の消毒液（イソジンと同類）を使用します。殆ど吸収されないので甲状腺の病気がある方も安全に使えます。ただしヨードにアレルギーがある場合（CTの造影剤で過敏な反応があった等）は別の消毒液を使います（ただし殺菌効果が劣ります）。

*麻酔にはキシロカインの点眼を使用します。歯科の麻酔などで過敏な反応があった方は、この薬が使えないため全身麻酔になることがあります。

*網膜剥離の発生率が約10倍に増えます。術後は長期に渡り定期的な眼底検査が必要です。

【合併症治療の費用について】

合併症治療の費用は手術を受ける方の負担になります（保険診療の自己負担分）。

【手術記録について】

手術は全例動画に記録します。その記録を個人が特定されないように加工し、教育・研究のため外部に発表する

ことがあります。本人の同意なしに個人情報明らかになることはありません。

【眼内レンズについて】

*眼内レンズの度数を選ぶことで、術後の目の屈折（遠視や近視の度数）を変えることができます。一般に、遠視の目はそれをなくすように、近視の目はそれを軽くするように設定します。この点は担当医とよく相談してください。ただし、計算で得られた度数は理論値なので狙い通りにならないことがあります。

*眼内レンズには人間の水晶体のような調節力（ピント合わせの力）がありません。状況に応じて手元用のメガネが必要です。

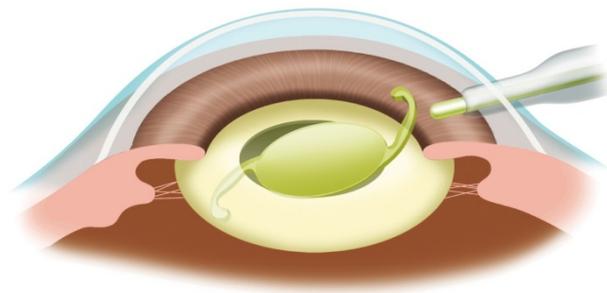
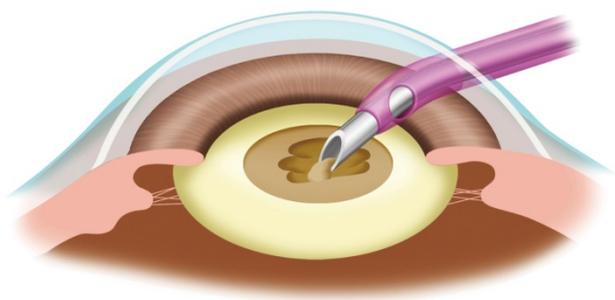
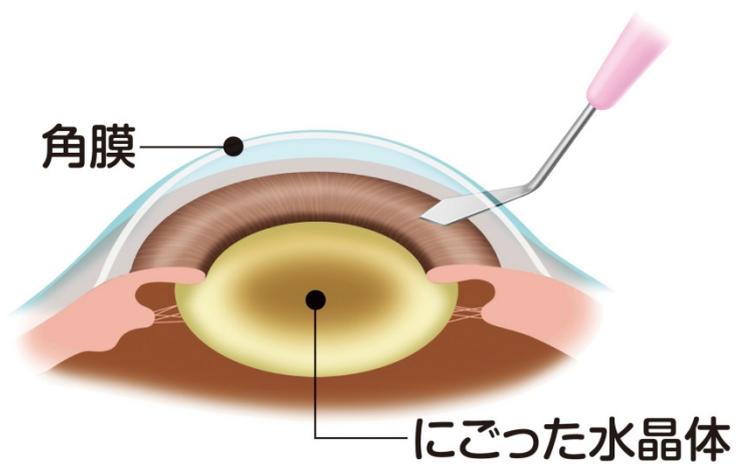
*眼内レンズは樹脂製で元の水晶体より小さいため、状況によって不自然な光が見えることがあります。

【多焦点眼内レンズについて】

遠近両用の眼内レンズです。このレンズを使用する場合は保険診療の自己負担分以外に選定療養費がかかります。一般に「遠視」または「強い近視」の方に適しています。軽い近視の方、白内障以外に目の病気がある方、75歳以上の方にはお勧めしません。興味のある方は担当医にお尋ねください。

【白内障手術の方法】

1. 角膜（黒目）と強膜（白目）の間を切開する
2. 水晶体の袋（嚢）に窓を開け、中身を吸い出す
3. 袋（嚢）に眼内レンズを挿入する



【最後に】

*手術についての要望、質問、および過去に回答した事柄の変更は随時可能です。手術を受けるかどうか判断ができない場合はセカンドオピニオンを求めることをお勧めします。

*手術に関するお問合せの際は、まず虎の門病院眼科外来にお電話下さい。

年 月 日 時 分 虎の門病院眼科

説明者